

「第5回全国青年交流会」を大分市で開催

「第5回全国青年交流会」を大分市で開催

—全国から来賓を含め総勢51名が参加—

当組合は、浅野博之副理事長及び東京支部青年会（会長：松丸誠吾(有)ティー・エル・シー一専務）のご協力を得て、平成26年10月17日（金）、新日鐵住金㈱の研修施設「攻玉寮」において、第5回『全国青年交流会』を開催した。

参加者は、青年会メンバー42名（北海道支部3名、東京支部14名、東海支部9名、大阪支部4名、神姫1名、九州支部11名）のほか、来賓として石原理事長、高木名誉顧問、酒匂副理事長、浅野副理事長が出席、総勢51名が参集した。

＜第1日目＞

1. 見学会(12:15～16:30)

—新日鐵住金㈱大分製鉄所と臼杵造船所を見学—

当日は、10時20分に大分空港、11時20分にJR大分駅に集合。チャーターバス2台に分乗し、出発。30分後に新日鐵住金㈱大分製鉄所に到着。

【大分製鉄所】概要説明を受けた後製鉄現場を見学した。同社は、71年発足。世界最大級の原料運搬船を着岸できる岸壁を有し、原料入荷から製品出荷まで合理的なレイアウトで一貫体制を構築。熱延ラインを厚板と薄板（コイル）に特化し、世界トップクラスにある。電源を2重3重に用意し、万一どれかが停止したらすぐに次の電源に切り換え、有事を未然にカバーする体制を今から40余り年前から整えていたという。「どんなにコンピュータが発達し、最新技術を駆使しても、結局、それを生かすかどうかは人間の判断に委ねられる」（酒匂副理事長コメント）。

【臼杵造船所】大分製鉄所からバスで約50分かけて移動。いくつかの山やトンネルを抜け、車窓から川や黄金色の田んぼが飛んだあと、小さな港町についた。臼杵は盆栽のような町だ。概要説明を受けた後、工場視察を行った。臼杵造船所は、限られたスペースの中で、ケミカルタンカーをはじめ各種船舶を建造する。素材の一次加工から部材組み立て、ブロック製作、艀装を構内で一貫作業を行っている。豊富な経験と高い技術を持ったベテラン職人が役割をしっかりと担い、人海作業の中で効率よく建造している。

主要株主であるJFE鋼材㈱社長の石原理事長は、「これまでに蓄積した『匠の技』に今後さらに磨きをかけつつ、それを自動化技術に置き換えていく努力を絶やさずに、顧客満足度を担保したうえで、合理化・機械化・システム化を進めていくことが戦略テーマである。その一例として、研究開発によって耐蝕性はステンレスと変わらず、高強度でコスト競争力のある新たな構造材採用を積極的に推し進めていこうとしている。この新たな素材が将来的に造船分野の構造規格材として認知されれば、船舶構造体重量の軽量化につながることも可能である。こうした「新しいことへの挑戦」を愚直に継続していくことが、技術力を“売り”

「第5回全国青年交流会」を大分市で開催

にするモノづくり企業の生命線となり、厳しい生き残り競争を勝ち抜く条件となる。」と強調。「その心は今や最先端の自動化・省力化・システム化を誇る製鉄技術も、その根本は現場職人の経験に基づく「五感」であり、その暗黙知を技術者・研究者が長い時間をかけて形式知に代えてきたわけであり、それを造船現場でも今、果敢に推進している。厚板シャアの現場も同様で、視察した2カ所の製造現場での取り組みを教訓にしてほしい」と呼びかけた。

大分製鉄所及び臼杵造船所殿には、最後に質疑応答の時間を設けていただくなど丁寧な接遇を賜った。玄関前で一同記念撮影を行い、両工場を後にした。バスは次の会場である新日鐵住金㈱の研修施設「攻玉寮」に向かい、17時頃到着した。

2. 地区情勢懇談会(17:30~19:00)

引き続き、17時30分より、「攻玉寮」会議室にて地区情勢懇談会が行われた。議事は以下の通り。

司会：松丸誠吾・東京支部青年会会長（(有)ティー・エル・シー専務）

① 歓迎挨拶 自見修真 理事・九州支部副支部長（自見産業㈱社長）

要旨「みなさんようこそ九州の地へ！当組合が次世代教育に注力していることは九州支部にも伝わっており、九州で初めて開催されるということで青年会対応として副支部長に就任し、地元メンバーの参加を呼び掛けてきた。全国から集まった青年会メンバーが共に交わり、共に学び、そして共に成長するという使命を全うし、交流の『実』を高めていこう」との掛け声で開会した。

② 講話 石原慶明理事長（JFE鋼材㈱社長）

要旨「今日は新日鐵住金㈱大分製鉄所と臼杵造船所を見学し、生産効率世界一の合理化されたラインと最新の素材を使った職人の技術を見た。我々シャアも伸ばせる技術を伸ばし、それに見合った対価がもらえるよう各社頑張ろう。」

③ 講話 酒匂雅信副理事長（京浜産業㈱会長）

要旨「ユーザーが求めるものを正確に汲み取り、自分しかできない技術を磨いていき、相場に左右されない環境を築いてほしい。」

④ 講話 高木建名誉顧問（前理事長）

要旨「今や日本を代表する大手企業さえ、従来の慣習やしきたり、しがらみ、常識感を引きずりながらの事業踏襲だけでは、目下のめまぐるしく変化する厳しいサバイバル競争を勝ち抜けないと自戒しており、自らの努力の下で、事業戦略の再編成を進めている。厚板シャア業界の世代交代が着々と進んでいることも実感しており、青年会メンバーは企業経営や団体運営において責任に領域と重さが広がっていることを自覚してほしい。少し先を見ながら、自らが出来る得ることを着実にクリアして前進してほしい。そのためにもこの青年交流会を通じて得た、知識や知見を、社業発展と業界の地位向上のために、いかに発揮することを願う。理事長時代に何度も訴えてきた「行動する青年会」であり続けて

「第5回全国青年交流会」を大分市で開催

ほしい。『自分自身の問題』として、5年先、10年先に成果の実を絶対摘み取るくらいの覚悟と中長期視野をもって舵取りして行ってほしい。」

⑤地区情勢懇談会

北海道（西村・玉造(株)常務取締役）、東京（田爪・徳和鋼材(株)社長）、
東海（田島・(株)テクノタジマ取締役）、大阪（石田・日鉄住金神鋼シャーリング(株)部長）、
神姫（橋崎・日新産業(株)取締役）、九州（牧野・豊鋼材工業(株)取締役）
の各支部代表より、現状報告が行われた。

⑥感想 太田一郎 鉄鋼新聞社記者

要旨「外部環境の変化とは、言い換えれば商流構造の変化を意味する。商流構造の変化を換言すれば、「仕事の偏り」、すなわちこれが繁閑の格差拡大をもたらしている。かつての「細く長い商流」が、サプライチェーン再構築によって、「太く短い商流」に変わりつつある。その中で、加工流通のあり方も、それに見合った機能へのブラシアップが求められている。自己の受け皿を深堀しつつ、パートナーシップによる機能連携とも併行させることが肝要である。これまでは、「競争・競合先」だった同業者であっても、必要に応じて「協創・協業の関係」を整備できるのも、青年交流会を通して信頼関係を築いてきたからに他ならない。「成果の実」の意味するところである。

⑥閉会の辞 額綱 元 東京支部青年会（(株)交告商店社長）

3. 交流パーティ(19:00~20:30)

司会：原大介・東京支部青年会副会長（原シャーリング(株)専務）

- ① 歓迎挨拶 浅野博之副理事長（日鉄住金神鋼シャーリング(株)社長）
- ② 来賓挨拶 関野孝志 新日鉄住金(株)大分製鉄所 工程業務部長
- ③ 乾杯 加藤純也・東海支部青年会会長（アカシ(株)社長）
- ④ 中締め 阿部大祐・北海道支部青年会会長（阿部鋼材(株)専務）

≪第2日目≫

懇親ゴルフ会

翌日18日（土）は、来賓を含め21名の参加者を得て、湯布高原ゴルフクラブで懇親ゴルフ会を開催。天候に恵まれ、和気あいあいのうちにプレーが進行、京浜産業(株)・酒匂雅信会長が優勝した。

以上